

平成 2 9 年 9 月 2 9 日

山都町議会議長 中村 一喜男 様

厚生常任委員長 藤澤 和生

委員会審査報告書

本委員会に付託された平成 2 8 年度山都町病院事業会計決算については、審査の結果、次の意見を付けて認定すべきものと決定したので、会議規則第 7 7 条の規定により報告します。

平成 28 年度山都町病院事業会計決算審査意見書

そよう病院は、へき地医療、地域包括医療、救急病院としての役割を果たし、関係機関・施設との連携を強めながら平成 28 年度事業を行い、決算に至っている。

延患者数は、入院患者数が 605 名増（対前年度比 3.98 パーセント増）となり、外来患者数は内科・歯科合わせて 692 名の減（対前年比 1.42 パーセント減）であったが、患者単価が上がったこともあり医業収益が対前年度比 4.18 パーセント増となったことと経費の抑制が出来たことで、新病院建設後初めての単年度黒字決算となり、約 1,880 万円の収益を計上することができた。患者内訳を見ると、町内全域からの来院が見て取れるとともに、五ヶ瀬町等からも多くの患者が来院されている。今後も良質な医療の提供により地域住民の信頼を得られるよう、職員一丸となって取り組んでいただくとともに、大きな課題である医師確保のために、熊大病院や熊本県への積極的な働きかけを、町とともに進めてもらいたい。

昨年 4 月の熊本地震では、幸いにも病院施設、また職員が大きな被害を受けることが無かったため、震災直後から医療活動や救急患者の受け入れ等行うことができた。

唯一の救急病院であるそよう病院の担う役割は大きく、急速な高齢化と人口減少が進む中ではあるが、今後も万全の体制で臨んでいただき、予防・介護・保健に関する機関や施設との連携を進めるとともに、病院の更なる健全運営に努められたい。